

大城 舞華

OSHIRO, Maika

リトグラフによる音楽の絵画表現

Visual expression of music in lithography

大学院1年後期より「音楽」をテーマに作品を制作している。修了制作では、私自身が演奏経験のあるドヴォルザーク「交響曲第7番」をモチーフに、そのメロディーラインから与えられる風景をイメージし制作をしている。

1楽章は冒頭の重低音から日没の空、2楽章は穏やかなメ

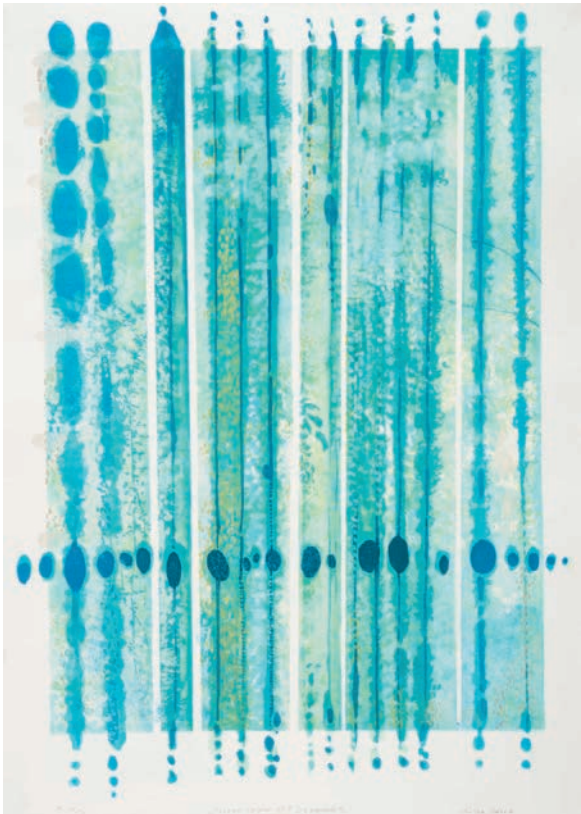
ロディーから暖かな野原、3楽章は軽やかに木管楽器が奏でる主題から爽やかな森林の中、4楽章はカノン風に展開する主題から夜空の星の煌めきをイメージし、制作中、版を重ねていくことで生まれる層の重厚感を、オーケストラのハーモニーのように捉え表現した。



Dvorak symphony No.7 1st movement
 リトグラフ / 洋紙
 Lithograph on paper
 100 × 75 cm



Dvorak symphony No.7 2nd movement
 リトグラフ / 洋紙
 Lithograph on paper
 100 × 75 cm



Dvorak symphony No.7 3rd movement
 リトグラフ / 洋紙
 Lithograph on paper
 94 × 72 cm



Dvorak symphony No.7 4th movement
 リトグラフ / 洋紙
 Lithograph on paper
 94 × 72 cm

加藤 舞衣

KATO, Mai

版画表現とは何か

「重ねる表現」と「間接性の表現」で広がる可能性

What is printmaking?

Broadening the possibilities of layering and indirectness

今回の修了制作では、壁に貼ってあるテープをモチーフにした作品を制作した。私が毎日通っているリトグラフ工房の部屋の壁に貼られたまま放置されたテープは、誰がいつ貼ったのかわからない。変色したテープからは長い年月が経っているのが感じ取れる。また、誰かが貼ったということは、この部屋を誰かが使っていたということであり、その痕跡がこのテープには残っていると感じた。

自作の中で一番私が表現したいことは、物の在り様であり、

支持体の中に時間が流れている様な景色と空間である。物本来を見ることに焦点を当てて制作を進めていく中で、「物は時間の経過や自然の力や人間の力で形や色に変化している」ということに興味を持った。

自作が目指しているのは、物そのものを主役とし、自分自身の感情や想いよりも、物の存在をダイレクトに見せることである。そのため、「インク＝物」「紙＝空気」に見立てて、物と空気の溶け合いを「紙とインクの対話」で表現する。



Wall
リトグラフ / いづみ紙
Lithograph on izumi paper
224 × 172 cm



北本 晶子

KITAMOTO, Shoko

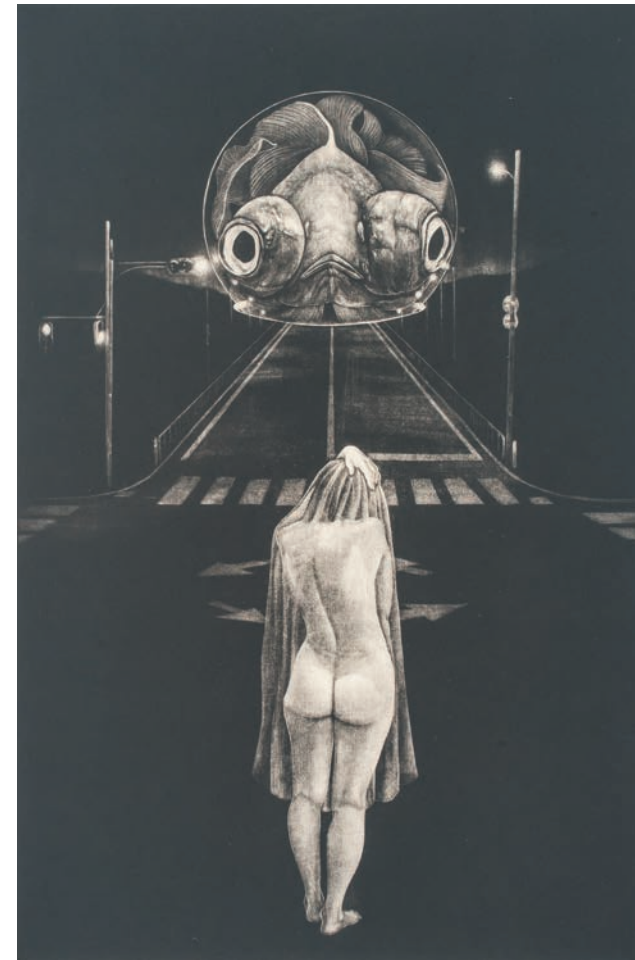
銅版画におけるメゾチント技法と修了制作作品における心象風景

Mezzotint copperplate printing technique and the mental landscape of my graduation works

自身の記憶や経験をテーマに、幼少期や思春期の壊れやすく未成熟で不安定な感情や、新しい物や人と出会ったときの自分に生じるあらゆる側面で感じる心理の変化を、銅版画メゾデント技法を用いて表現している。



レイン / Rain
銅版画、メゾチント技法 / ハーネミューレ紙
Copperplate printing and mezzotint on Hahnemühle paper
45 × 60 cm



ゴースト / Ghost
銅版画、メゾチント技法 / ハーネミューレ紙
Copperplate printing and mezzotint on Hahnemühle paper
45 × 30 cm

倉田 義也

KURATA, Yoshinari

カーボランダム技法の研究

A study of carborundum

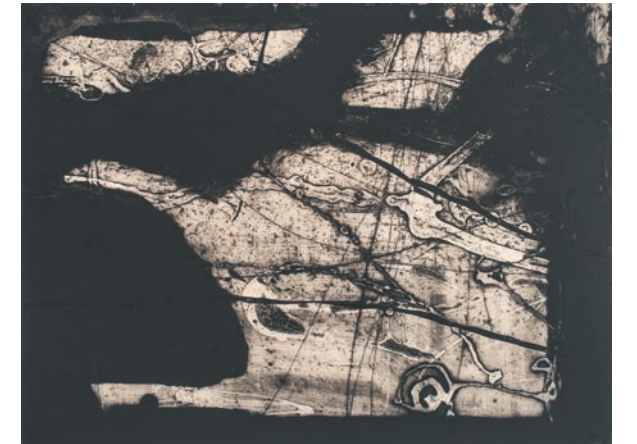


欠片-A / Fragment-A
コラグラフ / 洋紙 / Collagraph on paper
90 × 60 cm

自身にとっての制作とは、どのような形になるにせよ、制作行為が何らかの形になるという事実を物語ることを通じて、あらゆる社会的な外圧と、自らの内に育まれた内圧に対応する試みである。



欠片-B / Fragment-B
コラグラフ / 洋紙 / Collagraph on paper
90 × 60 cm



欠片-C / Fragment-C
コラグラフ / 洋紙 / Collagraph on paper
45 × 60 cm



欠片-D / Fragment-D
コラグラフ / 洋紙 / Collagraph on paper
45 × 60 cm

鄭 ハラム

JEONG, HaRam

ネガティブな内面の版画表現

Expressing the negative in woodblock printing



その日1 / THAT DAY 1

水性多色刷り木版 / 和紙 / Water-based multicolor woodblock print on Japanese paper / 90 × 60 cm

私は、人間の精神的特性である「性格」を大きく2つに分類を試みようと考えた。それは、「ポジティブ」と「ネガティブ」である。

興味を抱いた背景には、私自身の体験が大きな影響を与えている。

それは、私が幼少期の体験から後天的に「ネガティブ」

となったためである。しかし、日本への留学が決まったことをきっかけに「ポジティブ」へと変化していったが、内面的には、まだ「ネガティブ」な部分を多く存在し、私の内部で日々格闘しながら生活をしている。

このことが、私の創作活動へ大きく影響し、作品のテーマとなっていた。



その日2 / THAT DAY 2

水性多色刷り木版 / 和紙 / Water-based multicolor woodblock print on Japanese paper / 92 × 60 cm

白石 舞帆

SHIRAISHI, Maho

経験と感情による人物表現

Figure expression through experience and emotion

私は経験してきた出来事から様々な感情が湧き、思考や情景を絵画として表現してきた。

様々なところから影響を受け、それぞれの人との関わりは経験につながり、そこから思考が生まれる。その流れの中で、自身に内在する思考や感情のやり場のようなものを求

めた結果が創作活動であった。日常に起きた出来事だけを考えれば、その言語化は容易であっても、それを取り巻く思考や感情は言葉としてのまとまりを持たず、分離されるということがあった。そこで芸術は、日常的経験の構造に内在する感覚と意味との分離を補填するものだと考えている。



いいとこどり / Skim the cream

水性木版、手彩色 / 和紙

Woodcut on Japanese paper, colored by hand with watercolor
90 × 60 cm



ショートケーキ / Strawberry sponge cake

水性木版、手彩色 / 和紙

Woodcut on Japanese paper, colored by hand with watercolor
20 × 20 cm



いいとこどり2 / Skim the cream 2

水性木版、手彩色 / 和紙

Woodcut on Japanese paper, colored by hand with watercolor
60 × 90 cm



カプチーノ / Cappuccino

水性木版、手彩色 / 和紙

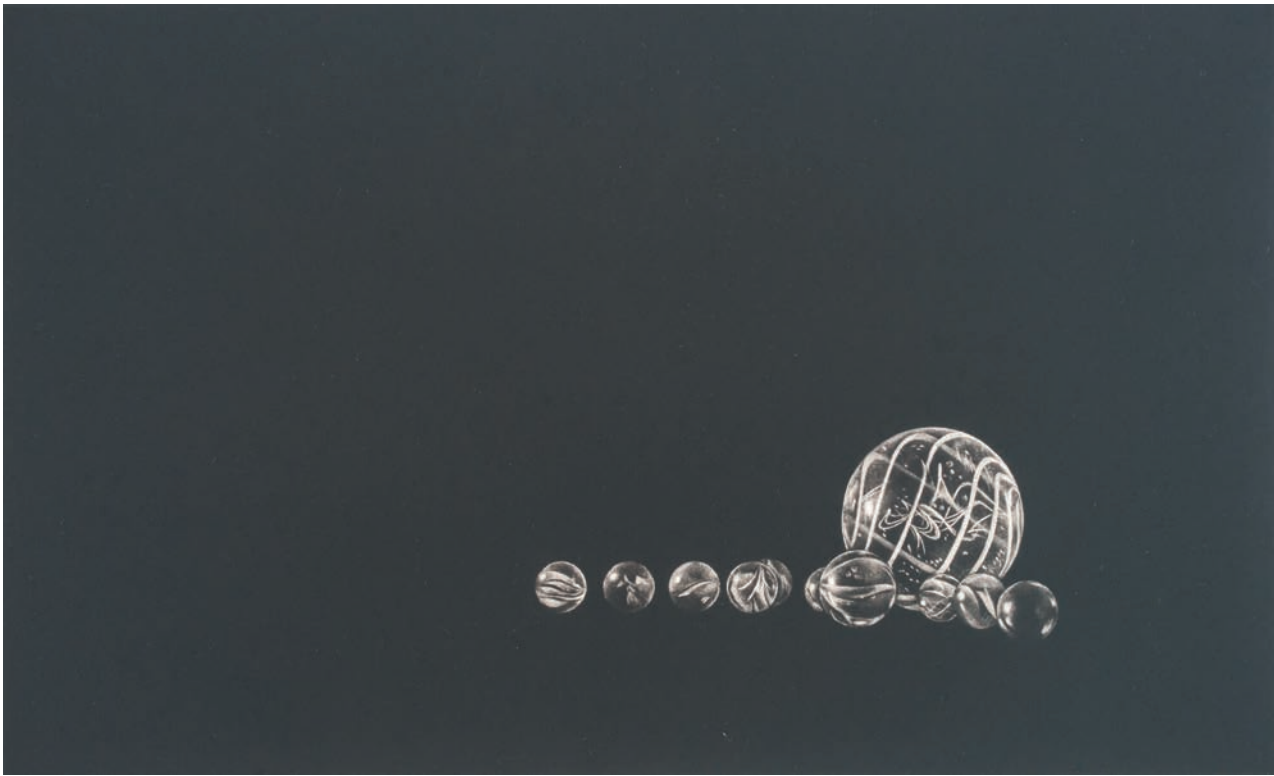
Woodcut on Japanese paper, colored by hand with watercolor
20 × 20 cm

戸田 和宏

TODA, Kazuhiro

メゾチント制作における自己の投影

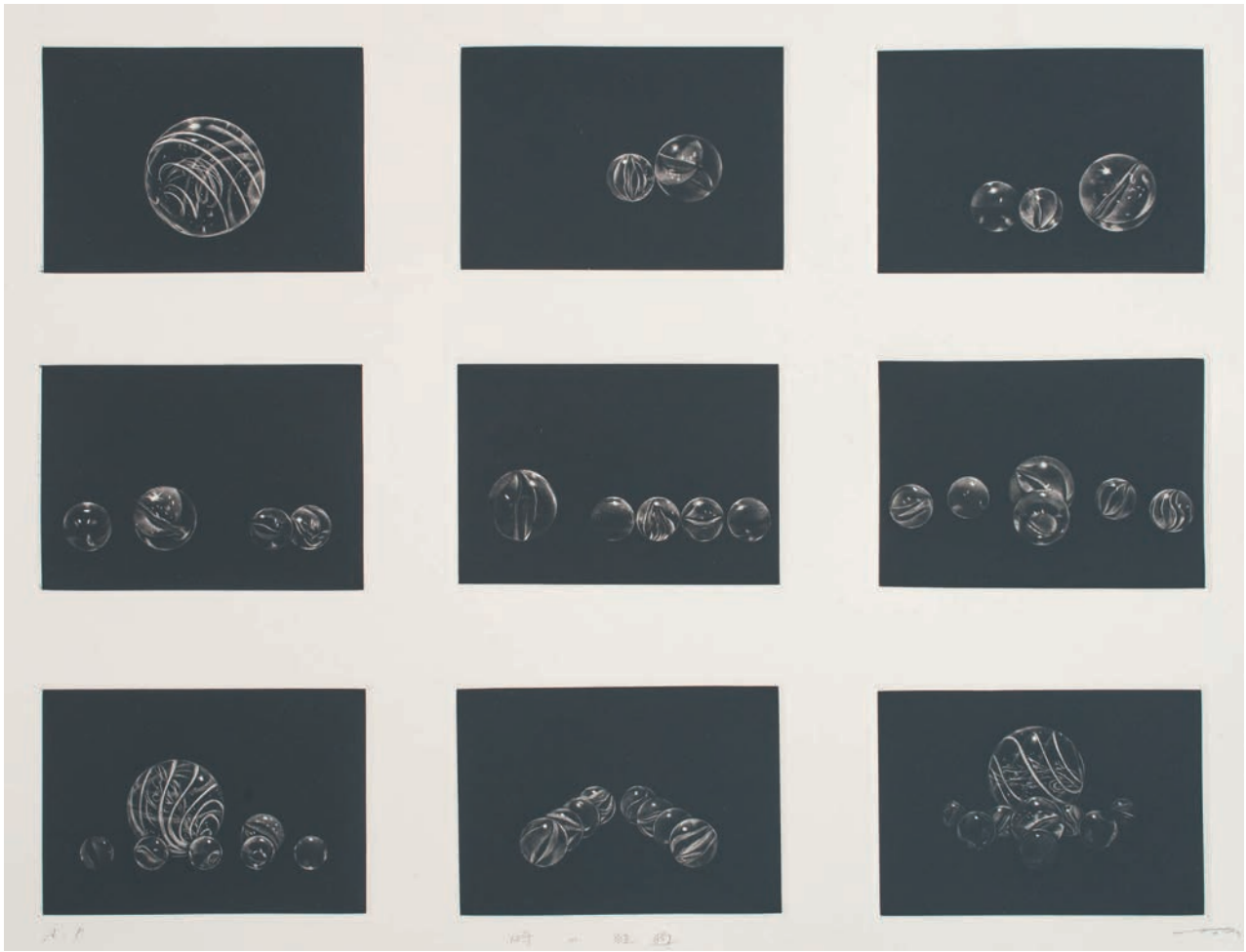
Self-projection through mezzotint



夢の途中 / In the middle of a dream
メゾチント / 洋紙 / Mezzotint on paper
21.5 × 35.5 cm

ビー玉をモチーフにして「思い出」と「自己投影」をメゾチント技法で表現することを研究してきた。自身が描くビー玉は「不完全の象徴」であり、不完全な自分の分身として位置づけている。それはビー玉がB級品としての意味を持つからだ。しかし、黒い空間の中でビー玉を通して自己の

投影を行っていくうちに、自分自身を浮き彫りにしていくこと、また自己投影としてビー玉の内部にその時の感情を描くことで、制作を通じて自己肯定できる自分がいることに気がついた。



時の経過 / The passage of time
メゾチント / 洋紙 / Mezzotint on paper
41 × 48.5 cm

松澤 綾

MATSUZAWA, Aya

版表現を通してモラトリアムからの脱却を図る

Escape from moratorium by means of printmaking



トラウムⅡ / *Traum* II
木版、シルクスクリーン / 和紙 / Woodcut and silk screen on Japanese paper / 60 × 90 cm



これまで「強い力を持つ者の傘下にある者」について考え、制作してきた。「強い力を持つ者の傘下にある者」を「守られた者」と表現しているが、私が考える身近な「守られた者」は、主に街中で見かける飼い犬である。飼い犬と飼い主の関係性を考えている内に、なぜか飼い犬の方に共感し、同

情してしまっていることに気づいたが、それは私自身が学生であり教育機関である学校に保護されてきた「守られた者」としての要素を持っているからなのではと考えた。大学院を修了し「守られた者」ではなくなる今だからこそ制作できるものがあるのではないかと考え、表現を模索した。



トラウムⅢ / *Traum* III
木版、シルクスクリーン / 和紙 / Woodcut and silk screen on Japanese paper / 60 × 90 cm



山崎 真悠子

YAMAZAKI, Mayuko

《境界領域の住人》との遭遇

Encounter with the inhabitants of a border zone



異郷小景(3) / Strange land III

水性木版、和紙 / Woodcut on Japanese paper

57 × 80 cm

〈この世〉と〈あの世〉の境界の領域＝《境界領域》に存在する、生者とも死者とも言えない《人ならざる者》と〈この世〉に存在する生者である私たち《人間》が遭遇するという状況に関心を持ち、それを作品の中で描写するにあたり《人ならざる者》が持つ美術的・視覚的な特徴や《人ならざる者》と遭遇する〈場〉、またその状況におけるシンボリックなアイテムなどについての考察を研究テーマとした。

《人ならざる者》は限りなく《人間》と近い姿形をしていても、《人間》とは決定的に異なる視覚的特徴、また周囲の異常を保持すると結論付けた。



異郷小景(1) / Strange land I

水性木版、和紙 / Woodcut on Japanese paper

70 × 85 cm

山之内 葵

YAMANOUCHI, Aoi

イメージの立体化と立体物のイメージ化によるコラージュから得られるもの

Double experience / Transferring images into objects, and vice versa

私の作品制作において、「イメージの立体化」とはイメージに見えている質量感を立体化し実物として存在させることを指し、「立体物のイメージ化」とは、現実が存在している物体を写真撮影によって質量をなくしイメージ化することを指しています。

コラージュのために素材を集めていくと、頭の中で情報が混在していき、どこかのタイミングで次元を飛び越えてバラバラだったものがつながる瞬間を見つけます。 見る・見たという経験が幾層にも重なり、スライドし、繋がっていく体験を立体物と写真を混在させた形で制作しました。



Double experience_2(Four)
 インクジェットプリント / Inkjet print
 46 × 96 cm



Double experience_4(Handle)
 インクジェットプリント / Inkjet print
 55 × 83 cm



Double experience_3(Circle)
 インクジェットプリント / Inkjet print
 44.5 × 72.5 cm

楊 佳

YANG, Jia

線と点で構成された動物の世界へ

エングレーピングの技法と表現

Viewing the animal world in dots and lines

Expression and techniques in engraving



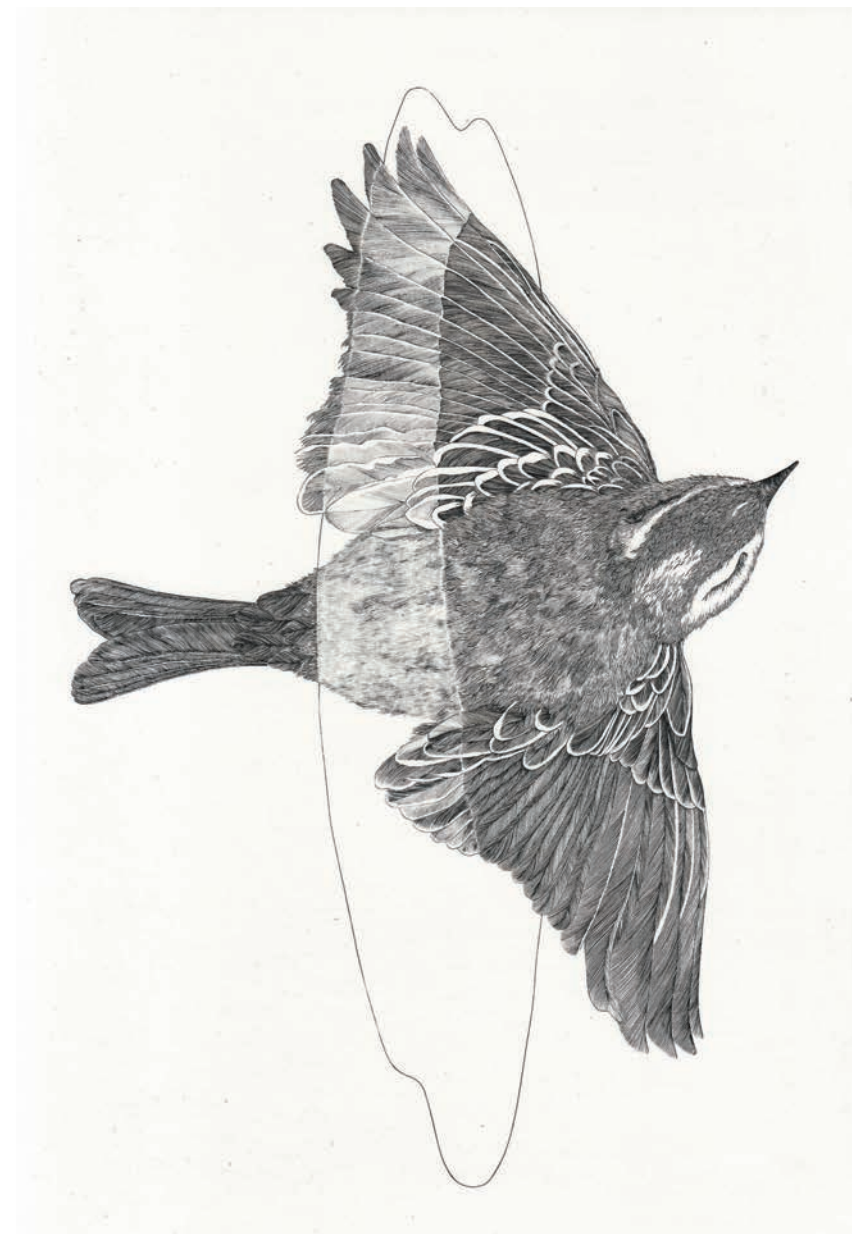
Reborn As A Bird

銅版画、エングレーピング、インク / 洋紙

Engraving and ink on Fabiano paper

22.5 × 15 cm

動物の描写を主に、動物と人間の関係、自然と人間の関係を通じて、私にとって生きることは何かの疑問を考えてきた。特に、鳥を自由と生命の象徴にたとえ、こころの中のそのイメージをそのまま彫り込んだ。硬い銅板の上に命の持つ柔らかな温かい線を彫り出せた時、私の中でイメージとテクニックが一つとなり享楽を感じることができる。



Living Like A Bird

銅版画、エングレーピング、インク / 洋紙

Engraving and ink on Fabiano paper

30 × 20 cm

絵画専攻修了論文題目一覧

日本画領域

楽 嘉怡	私の作品と浮世絵の関連性
片野 莉乃	俯瞰表現による絵画の可能性
桐谷 真理菜	絶望に見出す希望
呉 逸萱	無限について—円、鏡、光
吴 洋	岩彩の東方性に関する研究
櫻井 伽奈子	教訓としての美術
佐藤 藍子	別れについての考察
鈴木 康太	自作における絵画表現と日本文化の関係性について
高橋 和麻	自身の絵画制作について
田澤 苑実	日本的美意識と自身の制作について
前島 愛由	描き手と絵画、忘却の意味の追求
山本 瞳	青の撞着 —はじまりと自作品について—

油画領域

井口 絵里	生者による芸術について
井上 瑞貴	One topic and something
魏 嘉	好きなものの物事から自分に内在するものを考察する
小國 萌棕	語る相手のない独り言
小池 有乃	制作と物語について
小松 佑	秩序のアップデート、肯定する絵画
坂本 久美子	無限の中で漂う個体
鈴木 大介	バーネット・ニューマン論 —「ワンメント I」「ユークリッドの深淵」「Genetic Moment」「Genesis—the Brake」「The Beginning」についての考察—
戴 逸璿	女性の表情に関する研究 —東洋の目の表情表現—
田村 佳穂	蚊取り線香の、あの二重のやつが苦手
角田 圭史	過去と未来の間で
倪 力	絵画におけるメディア画像の表現研究
平田 守	絵画と画像におけるメディウムとアウラの表象についての考察(いつだって画像はコピーされることを望んでいるのかもしれない)
町田 帆実	記憶を描く 食
松本 藍子	見る、見られる
宮山 香和	絵画と距離—制作の中で
室井 美穂	水の多様性とその関わり
矢島 智美	自身の制作について
山縣 俊介	儀式と音楽、その密接な表現世界

山口 光	素材研究—「時代傾向」と「素材の変容」—
吉村 亜希子	日常から生まれる制作

版画領域

大城 舞華	画家と音楽
加藤 舞衣	版画表現とは何か —「重ねる表現」と「間接性の表現」で広がる可能性—
北本 晶子	銅版画におけるメゾチント技法と 修了制作作品における心象風景
倉田 義也	カーボラダム技法を通じた自作研究
鄭 ハラム	ネガティブな内面の版画表現
白石 舞帆	経験と感情による人物表現
戸田 和宏	メゾチント制作における自己の投影
松澤 綾	守られた者に目を向けることについての考察
山崎 真悠子	“境界の住人との遭遇”における美術表現
山之内 葵	イメージの立体化と立体物のイメージ化による コラージュから得られるもの
楊 佳	線と点で構成された動物の世界へ